

Japanese Course for Undergraduates
(Hamamatsu Campus) (Annual Report(2nd
semester, 2019-1st semester, 2020) I Japanese
Language Education)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028196

日本語研修コース（中級）

袴田 麻里

1. コースの概要

平成14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、平成21年から主として研究生や大学院生が受講するコースに変更し後期にのみ開講している。29年度からは全学教育科目で日本語・日本文化研修科目「日本語中級 I～X」として開講する。

本コースは、中級後半程度の日本語力を持つ学習者を上級へ引き上げることを目的とする。上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を目的に、表現したいことを適切に表現できるようになることを学習目標としている。令和元年度は、アジア・ブリッジ・プログラム学部留学生（以下ABP生）の初学期教育の一部としても活用した。ABP生は、研修コースの日本語中級 I～Xを履修し、初学期教育の基礎日本語 I～Xとして読み替える（2015年度に規則整備）。

集中コースという性格上、研究生や大学院生の履修は、研究室での活動に制限が生じさせる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コース自体と留学生の受講について指導教員から理解を得る努力をした。また、専門課程との兼ね合いから全ての授業は受講できないが一部は受講できるケースに対応できるよう、特定の科目を選択的に履修できるよう規則を整備した。

履修者の中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに、指導教員へ送付し、学部教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。

2. 授業期間

2019年10月1日～2020年2月7日

3. 受講者

プレイスメントテストの結果、以下の中国とスリランカの2名が中級後半の日本語力を持つと判定され、ABP初学期学生とともに基礎日本語 I～Xを受講した。

クラス	受講者数	国	所属・在籍身分	履修登録科目数
日本語4	1名	中国	研究生	5
	1名	スリランカ	総合科学技術研究科情報学専攻2年	2
基礎日本語 I～X	6名	ベトナム	工学部、情報学部1年	10
	1名	タイ	情報学部1年	10

4. 時間割

日本語4

	月	火	水	木	金
5・6時限 12:45-14:15	文法・表現	文法・表現	文法・表現	聴解	文法・表現
7・8時限 14:25-15:55	プロジェクト ワーク	作文	プロジェクト ワーク	語彙	作文

5. 授業内容

日本語4（中級後半）

目標：大学での勉学に必要な日本語能力（日本語能力試験N1以上）を身に付ける。

文法・表現 4コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。
②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、2課に1回、復習の時間を設ける。漢字テストは1課ごとに行なう。

作文 2コマ/週

使用教材：自主製作教材、『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

プロジェクトワーク 2コマ/週

使用教材：自作教材、新聞記事、テレビ番組、映画など

目的：新聞記事が読める、日本語で意見交換ができる、口頭発表ができるようになる。

内容：身近な社会文化的なテーマについて、新聞記事、テレビ番組、映画等のリソースを通じて、日本社会における様々な事柄に触れる。テーマについてのディ

スカッション、口頭発表、ピア・ライティングを行い、クラスメイトとの意見交換の場を多く設ける。

聴 解 1コマ／週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

『学ぼう！にほんご 上級』（専門教育出版）

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内 容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにかかった部分については、その理由について考察する。

語 彙 1コマ／週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目 的：新出語をもとに、類似した意味の語を学ぶ。

内 容：受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。